令和８年度シラバス（言語文化）

学番　28　新潟県立村上高等学校

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	２単位	学年(コース)	１学年
使用教科書	第一学習社『高等学校　言語文化』				
副教材等	古典文法：桐原書店『基礎から学ぶ解析古典文法 四訂版』 漢文句形：尚文出版『必携 新明説漢文～句法と語彙を一緒に学ぶ 改訂版』 問 題 集：尚文出版『基本の古典　大学入学共通テスト対策　新装二版』 ラーンズ『進研ＷＩＮＳＴＥＰ古典１新課程版』				

1　グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①未知のものに勇気をもって向き合い、謙虚に、かつ、意欲的に学ぶ生徒の育成を行います。 ②他者への配慮と心のこもった挨拶や振る舞い方を身に付け、思いやりをもって他者に接することにより、真に信頼される生徒を育成します。 ③学校生活の様々な機会を通じて心と体を鍛え、自分の将来の目標に向け、覚悟をもって努力する生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①生徒一人ひとりの学力を高めるために、基礎的な学習の繰り返しにより知識の定着を図る指導を行います。 ②確かな学力に基づく問題解決力と判断力を身に付けさせるために、教科横断的な探究学習を行います。 ③専門分野に対する深い理解をもった職員が、質の高い授業を行い、学ぶことの面白さと喜びを伝えながら、生徒の教養を高めます。

2　学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3　指導の重点

生徒の多くが大学・短大等への進学を希望していることから、入試に結びつく基礎学力の定着を図りつつ、次のことを重点とする。

(1) 一人一人の生徒の実態に即して古典文法（用言・助動詞）および漢文句法は年間を通じて学び、基礎力を養う。

(2) 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、さまざまな時代の作品に表れている情景や心情を鑑賞し、言語文化の特質や漢詩文の影響などを理解することを目指す。

4　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

5　評価方法

<table>
<tr><td rowspan="4">評価方法</td><td colspan="3">各観点における評価方法は次のとおりです。</td></tr>
<tr><td>知識・技能</td><td>思考・判断・表現</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td>以上の観点を踏まえ、
定期考査、提出物、小テスト
などから､評価します。</td><td>以上の観点を踏まえ、
定期考査、グループワーク、プレゼンテーション
などから､評価します。</td><td>以上の観点を踏まえ、
提出物、グループワーク、長期休業課題
などから､評価します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」､「B：おおむね満足できる」､「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</td></tr>
</table>

6　学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4～5	古文入門	3「B読むこと」 古典	児のそら寝	・音読により歴史的仮名遣いに慣れる。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ・古語辞典の引き方を理解する。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	3	授業態度 発表・報告 課題の提出 定期考査 リフレクションシート
	漢文入門	3「B読むこと」 古典	漢文の学習 訓読に親しむ 漢文を読むために	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。	3	
	故事成語	2「B読むこと」 古典	漁父之利	・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。	2	
5～7	随筆	5「B読むこと」 古典	枕草子 「はしたなきもの」 徒然草 「ある人､弓射ることを習ふに」	・さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解して自分の考えを伝え合う。 ・文法（用言の活用）と語句を理解する。	5	
7～10	詩	2「A書くこと」 4「B読むこと」 古典	唐詩の世界 「静夜思」（李白） 「送元二使安西」（王維） 「春望」（杜甫） 日本の漢詩 「読家書」（菅原道真）	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢詩のきまりを理解する。 ・日本の各時代によまれた漢詩を鑑賞し、人への思いがどのように表現されているかを読み取る。 ・漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明する。	6	授業態度 発表・報告 課題の提出 定期考査 リフレクションシート
	近現代の詩歌	10「B読むこと」 近代以降の文章	「甃のうへ」「一つのメルヘン」「自分の感受性くらい」「I was born」 「その子二十」	・文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の心情を捉え、話し合う。 ・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取る。 ・短歌・俳句のリズムや表現の特徴を理解し、作品に込められた作者の心情を読み取る。	10	

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
				・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、その内容を解釈し、まとめる。 ・俳句を創作してみる。		
	歌物語	５「B読むこと」 古典	伊勢物語 「芥川」「東下り」	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・和歌の修辞を理解し、和歌に託された人物の心情を読み取り、わかったことを伝え合う。 ・文法（助動詞の文法的意味と活用）と語句を理解する。	５	
１０	史伝	４「B読むこと」 古典	完璧	・内容や展開を的確に捉え、作中に描かれた藺相如の考えや人物像を読み取りまとめる。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「完璧」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉との関連について理解する。	４	
１１	日記	１「A書くこと」 ４「B読むこと」 古典	土佐日記 「門出」	・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、まとめる。 ・作品に表れている批評や諧謔の精神を捉え、内容を解釈する。 ・文法（助動詞の文法的意味と活用）と語句を理解する。	５	
１２	日記	３「B読むこと」 古典	土佐日記 「帰京」	・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈し、伝え合う。 ・文法（助動詞の文法的意味と活用）と語句を理解する。	３	授業態度 発表・報告 課題の提出 定期考査 リフレクションシート
1	史伝	４「B読むこと」 古典	先従隗始	・戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「先従隗始」の由来と現代の意味の違いを知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	４	
	古典の詩歌	２「A書くこと」 ３「B読むこと」 古典	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	・和歌という文章の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉え、その内容をまとめる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・枕詞や序詞、掛詞・縁語・見立て、本歌取り・本説取り・体言止めなどの和歌の修辞について、文語のきまりを理解する。	５	

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
2	伝統と文化	９「B読むこと」近代以降の文章	「人形浄瑠璃文楽―三業一体の技」「祭りの笛」	・我が国の伝統文化に関する文章を読んで、扱われている題材や内容を理解し、興味を広げる。 ・文楽独自の舞台様式や表現の技法などについて理解を深める。 ・我が国の伝統行事について書かれた文章を読み、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。 ・伝統芸能や伝統文化について調べ、発表する。	9	

計 64 時間（55 分授業）

※領域ごとの授業数合計

領域ごとの授業時数合計	A「書くこと」５時間	B「読むこと」古典 40 時間	B「読むこと」近代以降の文章　19 時間

７　課題・提出物等

・各教材が終了した時点で、「課題プリント」を課し、必要に応じてノートの提出があります。
・週１回、小テストを実施します。
・週末及び長期休業にワーク課題「基本の古典　大学入学共通テスト対策　新装二版」「進研 WINSTEP　古典１新課程版」を課し、提出状況を評価します。

８　担当者からの一言

・私たちは言葉で考え、言葉で相手と意思疎通を図ります。当たり前のように使っている言語は、どのような背景を持って今に至るのか。「言語文化」の授業を通して改めて言語を見つめ、主体的な姿勢で学んでいきましょう。
・基礎的事項を確実に定着させるために、予習・授業・復習のサイクルを確立させ、継続した学習に取り組みましょう。理解できないところは遠慮なく質問してください。